

「へてか へねかめ」 おふろでね

宮川 ひろ 作

きょうは ひさしぶりに じいちゃんと おふろ。

そうたは、じいちゃんのおふろが だいすき。

じいちゃんは、あたまを あらうのが じょうず。

おおきな てで、ごしごししてくれる。

それに あっというまに おわる。

じいちゃんのおふろは、 いっぱい あそばせてくれる。

そこが いちばん すき。

「さあ、そうた。そろそろ あったまろう」

「うん。『へてか へねかめ』 3かいでね」

そうたの こえが はずむ。

「じいちゃんも、じいちゃんのおかあさんも、

こどものころ 『へてか へねかめ』で はいったんだよ」

(童心社)

(注)「へてか へねかめ」とは、長野県ながのけんに住むある女性じよせいがこどものころ毎日まいにち

おふろでとなえていたことば。

どのように読むかきまりはないので、自由にじゆうたのしく朗読ろうどくしてください。